

2020 年度日本海洋学会通常総会議事録

日時：2020 年 5 月 18 日（月）～26 日（火）

2020 年度の通常総会は、インターネットを通じた書面開催とし、審議事項の採決はインターネット上の投票により行った。

1. 会長挨拶

総会開催にあわせて、書面による神田会長の挨拶が配布された。概要は以下の通り。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、春季大会 (JpGU) の現地開催ができなくなり、日本海洋学会の通常総会はウェブ上での資料確認と賛否投票という形式での開催となった。これは東日本大震災直後の 2011 年春、書面での総会を開催して以来の事態である。
- ・通常総会は、予算・決算を含め前年度の事業報告と当該年度の事業計画などを審議する年に 1 回の重要な機会であり、このような形式は残念であるが、多くの会員が学会の状況を確認し、審議に参加するようお願いする。
- ・2019 年 8 月に磯辺篤彦会員、宗林由樹会員が海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）を受賞、2020 年 4 月に磯辺篤彦会員、日比谷紀之会員が文部科学大臣表彰（科学技術賞）を受賞、2020 年度日本地球惑星科学連合フェローに植松光夫会員が選ばれた。
- ・日本海洋学会が中心となり、水産・海洋科学研究連絡協議会の学協会および日本古生物学会との連名で日本学術会議に提案していた「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」が、2020 年 1 月に第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）に重点大型研究として採択された。重点大型研究は全ての学術分野の中で 31 件のみで、日本海洋学会の提案としては初めての採択である。これを踏まえ、文部科学省「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ 2020」にも申請している。
- ・来年 2021 年には国連の「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」がスタートし、同時に日本海洋学会は創立 80 周年を迎える。困難な状況下であるが、学会としてもできる限りの努力をしてこの 1 年を乗り切りたい。

2. 審議事項

出席会員数は 252 名（web 投票者数 172、委任状数 80）であり、会則第 28 条より 2020 年度通常総会は成立した。下記の投票結果の通り、審議事項 3 件については、出席会員全員から承諾が得られ、会則第 29 条により承認された。

web 有効票数 172 票

審議事項 1) 2019 年度事業報告並びに決算報告について 承諾 172 不承諾 0

審議事項 2) 2019 年度監査報告について 承諾 172 不承諾 0

審議事項 3) 2020 年度事業計画並びに予算案について 承諾 172 不承諾 0

以上